

教科名	国語	科目名	現代の国語	対象学年	1 学年	履修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時数	70
目標 (生徒につけたい力等)	・様々な文章に触れることで自分の価値観を広げ、論理的に考える力や想像力を豊かにし、自分で考えたことを他者に伝えることができるようとする。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						

学期	時数(時間)	学習項目(何を学ぶのか)	学習内容(どのように学ぶのか)						
1学期	5	漢字・語彙のドリル学習	・通年にわたり、ドリル学習を通して、漢字の力と語彙の知識を身に付けていく。						
	7	・村田紗耶香「コソソメスープ」 ・福岡伸一「ルリボシカミキリの青」	・筆者独自の考え方から、人それぞれが持つ「異世界」について考える。 ・好きなことがあることがなぜ大切なか理解し、筆者の主張を読み取り説明できるようにする。						
	9	・評論の読み方 ・石田英敬「未来をつくる想像力」	・評論文の構成を捉え、接続語や具体例の役割などを理解し、筆者の主張を正確に読み取れるようにする。 ・「メディア」と「想像力」、「未来」と「想像力」の関連について理解する。 ・生活の中でのメディアについて考え、話し合う。						
2学期	8	山崎正和「水の東西」	・日本と西洋の水をはじめ、様々な対比関係を整理して日本独自の文化について理解する。 ・二項対立の事柄について具体的な事柄を挙げ説明する。						
	6	・村上信夫「鍋洗いの日々」 ・鈴木菜々子「森で染める人」	・職業について書かれた2つの文章を読み、筆者の体験談を通して、これから自分がすべきことを踏まえて、仕事について考えたことを作文にし、発表する。						
	12	塚谷裕一「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」	・本文中の対比関係を整理して把握し、筆者の主張を読み取る。 ・都市部におけるスキマが生態系に果たす役割について理解する。						
3学期	7	港千尋「無彩の色」	・灰色に対する一般的なイメージと筆者の評価とその理由、伝統色の観点から筆者の主張する日本文化の美を理解する。						
	8	高階秀爾「美しさの発見」	・「美しさ」の一般的な捉えられ方と、筆者の「美しさの発見」についての主張の違いを理解し、説明できるようにする。						
	8	鷺田清一「真の自立とは」	・現代社会における問題点の構造や、具体例とその一般化の関係を確認しながら読み、筆者の主張を捉える。 ・キーワードの筆者独自の定義を理解し、言葉のつながりを理解し、主題を把握する。						
教科書/ 副教材	教科書「新編 現代の国語」(東京書籍) 副教材「ダブルクリア」・「キーワードの卵」(尚文出版)								
関連科目	「言語文化」								
評価の 観点	知識・技術	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられたか。							
	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者と伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。							
	主体的に学習に取り組む態度	・言葉が持つ価値への認識を深め、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養えたか。							
評価の 観点 ・方法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	学習観察、発言、話し合い等					○			
	テスト等		○	○					
	ノート・課題等		○	○	○				
	自己評価		○	○	○				
	評価割合(%)		50	25	25				
留意事項									
備考									

教科名	国語科	科目名	言語文化	対象学年	1 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	1 単位	時 数	35
目標 (生徒につけたい力等)	・生涯にわたって読書に親しむことで、我が国の言語文化に対する理解を深められるようになるとともに言語文化の担い手としての自覚を深められるようにする。 ・他者との関わりの中で相手の気持ちを理解し、自分の思いや考えを伝えたり深めたりすることができるようになる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)
1学期	3	俵万智『さくらさくらさくら』 言語「花」といえば「桜」?	・3つの段落に分け、それぞれの話題をまとめる。 ・日本と外国での桜に対する感じ方の違いを理解する。 ・「百人一首」花を詠んだ短歌の心情を整理・発表する。
	2	『「美しい」ということ』 赤木明登	・「美しい」ということはどのようなことかを考えながら、本文を通読する。 ・筆者の美しいという感覚について考えながら、どのような経験を通してそう考えるのかを捉える。
	6	古典に親しむ 『児のそら寝』	・古文と現代文の違いについて理解する。 ・古文の代表作品の冒頭を音読し、現代文とは仮名遣いが違うことを知る。 ・本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。 ・児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味を考える。 ・現代語訳する際の注意点を理解する。
2学期	6	『絵仏師良秀』 古文の窓1	・本文を音読し、人々と良秀の言動を読み取る。 ・良秀の人物像について考える。 ・係り結び・仮定条件・確定条件について学習する。 ・古典から生まれた近現代の小説『地獄変』を読み、原典との違いを考える。
	3	訓読の基本	・漢文と日本語の言語構造の違いと日本語として読む工夫が訓読であることを理解する ・返り点・再読文字を理解し、書き下し文に慣れる。 ・助字・置き字を理解する。
	6	故事成語三編 『守株』『五十歩百歩』『虎の威を借る』	・書き下し文のきまりを確認する。 ・『守株』『五十歩百歩』『虎の威を借る』の現代語訳を正確に理解する。 ・『守株』『五十歩百歩』『虎の威を借る』の故事成語としての意味を理解し、活用できるようにする。 ・故事成語が日本語に果たす役割を理解する。
3学期	6	『とんかつ』三浦哲郎	・本文を通読し漢字や語句の意味を調べる。 ・3つに分けられた部分の出来事や登場人物の性格や心情をまとめる。 ・題名を考慮に入れて、主題をまとめる。
	3	『徒然草』 「亀山殿の御池に」	・全文を読み、あらすじを読み取る。 ・「大井の土民」と「宇治の里人」の水車造りの能力を比較してまとめる。 ・主題を考える。
教科書/ 副教材	教科書「新編 言語文化」(東京書籍)		
関連科目	「現代の国語」		
評価の 観 点	知識・技術	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深められたか。	
	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。	

	主体的に学習に取り組む態度	言葉の持つ価値の認識を深め、読書に親しみ、我が国の言語文化の扱い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わる態度を養うことができたか。		
評価の観点・方法	評価方法	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習観察、発言、話し合い等		○	○
	テスト等	○	○	
	ノート・提出課題	○	○	○
	自己評価			○
	評価割合(%)	50	25	25
留意事項				
備考				

教科名	国語科	科目名	現代表現	対象学年	2 学年	履修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	1 単位	時数	35
目標 (生徒につけて たい力等)	国語で適切で効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、進んで表現することによって社会生活の充実を図る態度を育てる。						

学 期	時数(時間)	学習項目(何を学ぶのか)	学習内容(どのように学ぶのか)					
1学期	5	・文章を書くための表現の基礎を身につける。	・教科書の例文を使って「整った文章」「分かり易い文章」「文のつなげ方」について理解する。					
	6	・自分という人間についての理解を深める。	・ワークシートを活用して、これまでの自分自身の生活を振り返って自分についての理解を深める。					
2学期	6	・自分を説明する文章を書くことを通して、情報を収集・整理し、構成や表現を工夫して書く力を身につける。	・課題を設定し、主張を分かり易く伝えるための材料を集め、整理する。 ・文章の構成メモを作成し、文章を書く際の注意点を整理する。 ・相手に応じた表現の工夫を考える。					
	6	・様々な文章を正確に読み取る力を身につける。	・様々な評論文を読んで、主題、根拠、具体例を整理する。					
3学期	6	・意見文を書くことを通して、論理的で説得力のある文章を書く力を身につける	・主張を支える根拠や具体例を整理する。 ・文章の構成(三段落構成や四段落構成)を考える。					
	3	・意見文を口頭で発表することを通して、論理的な説明や視覚資料の使い方を身につける。	・資料の視覚化についての注意点を理解する。 ・口頭で発表する際の注意点や視覚資料の活用方法について理解する。 ・視覚的な工夫をしながら口頭発表を行う。					
教科書/ 副教材	教科書「現代国語 改訂版」(大修館書籍) 自作の補助教材プリント							
関連科目	「現代の国語」							
評価の 観 点	知識・技術	・社会生活に必要な国語の基礎的な知識や技能を身につけるとともに、論理的に表現する技術を身につけられたか。						
	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で相手の立場に立って考え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。						
	主体的に学習に取り組む態度	言葉の持つ価値の認識を深め、作品に親しみ、国語による言語活動の扱い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わる態度を養うことができたか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	学習観察、発言、話し合い等		○	○	○			
	テスト等		○	○				
	ノート・提出課題				○			
	自己評価		○	○	○			
	評価割合(%)		50	25	25			
留意事項	これまでに体験してきた事柄を関連づけて考察し、表現できるように配慮する。							
備考								

○教科名	国語科	科目名	言語文化	対象学年	2 学年	履 修	必修
対象学科	全学科	コース		単位数	1 単位	時 数	35
目標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって読書に親しむことで、我が国の言語文化に対する理解を深められるようにするとともに言語文化の担い手としての自覚を深められるようとする。 ・他者との関わりの中で相手の気持ちを理解し、自分の思いや考えを伝えたり深めたりすることができるようとする。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)
1学期	5	『徒然草』 「亀山殿の御池に」	<ul style="list-style-type: none"> ・『徒然草』と作者吉田兼好について必要な知識を知り、後世への影響を考える。 ・全文を音読し、あらすじを読み取る。 ・「大井の土民」と「宇治の里人」との、水車作りの能力を比較してまとめる。 ・主題を考える。
	7	芥川龍之介『羅生門』	<ul style="list-style-type: none"> ・芥川龍之介や芥川賞についての基本的な知識を身につける。 ・全文を読み、時代背景を確かめる。 ・下人の内面の変化をまとめる。 ・「老婆」「下人」がその後どうなったかを考え、理由を付けて説明する。 ・主題を考える。
2学期	5	『枕草子』 「うつくしきもの」	<ul style="list-style-type: none"> ・『枕草子』と清少納言について必要な知識を知り、後世への影響を考える。 ・本文を音読し、何を「うつくし」として取り上げているかを理解し、整理する。 ・現代版「うつくしきもの」を書き、発表する。
	5	『伊勢物語』 「芥川」	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢物語についての必要な知識を知る。 ・貴族社会における和歌の役割を知り、後世への影響を考える。 ・本文を通読してあらすじを読み取る。 ・本文の記述から女の人物像を理解する。 ・和歌を中心に、男の心情の推移を読み取る。
3学期	6	『戦国策』「虎の威を借る」 短歌を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の訓点に従って書き下し文を作り、現代語訳する。 ・本文の内容を整理し、「寓意」を理解する。 ・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の中から好きな和歌を一首選び、その理由を説明する。 ・自分の思いを和歌にして発表する。
	5	『夢十夜』	<ul style="list-style-type: none"> ・夏目漱石について必要な知識を知る。 ・本文を通読する。 ・「第一夜」について、死後の場面から女に対する自分の心情を考える。 ・「第六夜」について、自分が仁王を厭れない理由について、明治という時代に着目しながら考える。 ・明治の文学界の流れについて理解する。
	3	『世説新語』 「魏武捉刀」	<ul style="list-style-type: none"> ・訓点や再読文字に注意して本文を読む。 ・本文を書き下し文にして現代語訳を作る。 ・魏武が使者を殺させた理由を考える。
教科書/ 副教材	教科書「新編 言語文化」(東京書籍)		
関連科目	「現代の国語」		
	知識・技術	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深められたか。	

評価の観点	思考・判断・表現	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。		
	主体的に学習に取り組む態度	言葉の持つ価値の認識を深め、読書に親しみ、我が国の言語文化の扱い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わる態度を養うことができたか。		
評価の観点 方法	評価方法	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習観察、発言、話し合い等		○	○
	テスト等	○	○	
	ノート・提出課題	○	○	○
	自己評価			○
	評価割合(%)	50	25	25
留意事項				
備考				

O教科名	国語科	科目名	論理国語	対象学年	3 学年	履修	必修
対象学科	全学年	コース		単位数	3 単位	時数	105
目標 (生徒につける力等)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 思考力、判断力、表現力 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 学びに向かう力、人間性 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他人や社会に関わろうとする態度を養う。						

学期	時数(時間)	学習項目(何を学ぶのか)	学習内容(何を、どのように学ぶのか)
1学期	7	「最初のペンギン」	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルに象徴される筆者の考え方を手がかりにして自分の生き方を考える。
	6	「対話とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> ・日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。
	6	「『ふしぎ』ということ」	<ul style="list-style-type: none"> ・挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。
	3	問題集「国語常識の総演習」	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解いて語彙力・文法力を向上させる。
	3	問題集「キーワードの卵」	
	7	「学ぶことと人間の知恵」	<ul style="list-style-type: none"> ・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について考えを深める。
	7	「山月記」	<ul style="list-style-type: none"> ・小説を読み、人間、社会、自然について考え、他人の考え方を比較しながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
	3	問題集「国語常識の総演習」	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解いて語彙力・文法力を向上させる。
	3	問題集「キーワードの卵」	
2学期	7	「思考の肺活量」	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。
	7	「科学的な『発見』とは」	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中の課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。
	3	問題集「国語常識の総演習」	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解いて語彙力・文法力を向上させる。
	3	問題集「キーワードの卵」	
	7	「複数の『わたし』」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。
	7	「楽に働くこと、楽しく働くこと」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解しよう。
3学期	3	問題集「国語常識の総演習」	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解いて語彙力・文法力を向上させる。
	3	問題集「キーワードの卵」	
	7	「もう一つの知性」	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考とは異なる思考のあり方について理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。
	7	「未来のありか」	<ul style="list-style-type: none"> ・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。
教科書/ 副教材	問題集「国語常識の総演習」「キーワードの卵」(尚文出版)		
	教科書「新編論理国語」(東京書籍)、副教材「国語常識の総演習」「キーワードの卵」(尚文出版)		
	「現代の国語」「言語文化」「現代表現」		
評価の 観点	知識・技術	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにすることができたか。	
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにすることができたか。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他人や社会に関わろうとする態度を養うことができたか。	

評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	学習観察、発言、話し合い等		○	○
	テスト等	○	○	
	ノート・提出課題	○	○	○
	自己評価			○
評価割合(%)		50	25	25
留意事項				
備考				

教科名	国語科	科目名	現代表現	対象学年	3 学年	履修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目標 (生徒につけるべき力等)	国語の授業において、適切で効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、進んで表現することによって社会生活の充実を図る態度を育てる。また、進路の実現を目指し、書くこと、話すことを中心に、社会性のある様々なテーマについて自分の考えを深め、伝えることのできる言語能力を育成する。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	5	文章を書くための表現の基礎を確認するとともに、自分の考えを言葉で伝えるという意識を持つ。	「整った文を書く」「分かりやすい文を書く」「文のつなぎ方」など、教科書を用いながら、2年次に学んだことの復習をする。					
	10	進路の実現に向けて、自分という人間について理解を深める。	志望理由書などに向け、「自分を見つめて」書き出してみる。「効果的な自己PR」「志望理由を書こう」					
	12	テーマに沿って、いくつか作文を書く中で、文章を書くことに慣れる。	「小論文とは何か」「反論を想定して書く」「発想を広げて書く」					
2学期	10	進路実現に向けて、自分の目指す分野に関する知識を増やす。	新聞記事などの実用的な文章に触れ、自分の興味あるテーマの情報を収集し、まとめ、レポートにする力を付ける。					
	8	要約を踏まえた小論文や資料を生かした小論文の書き方を学ぶ。	課題文の要約をした上で、自分の考えを書く。					
	15	文章を正確に読み取ると同時に、自分の問題に引き付けて物事を考え、それを表現する力を身に付ける。	「文章を読み取って書く」「統計資料を読み取って書く」					
3学期	5	実用的な文章を学び、様々な表現の可能性を探る。	手紙やハガキの書き方など、実用的な表現方法を学ぶ。					
	5	様々な文章に触れ、自分自身でも表現できるようにする。	小説や取扱説明書などで使われている表現を取得し、文章を書く。					
教科書/ 副教材	教科書「国語表現」(大修館書店) 自作の補助教材プリント							
関連科目	「現代の国語」「言語文化」「論理国語」							
評価の 観 点	知識・技術	社会生活に必要な国語の基礎的な知識や技能を身につけるとともに、論理的に表現する技術を身につけられたか。						
	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で相手の立場に立って考え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができたか。						
	主体的に学習に取り組む態度	言葉の持つ価値の認識を深め、作品に親しみ、国語による言語活動の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わる態度を養うことが出来たか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○			
	実験・実習(行動観察、技能)							
	テスト等(パフォーマンステストを含む)		○	○				
	レポート・ノート・課題等				○			
	自己評価		○	○	○			
	その他()							
	評価割合(%)		50	25	25			
留意事項								
備考								

教科名	国語科	科目名	古典講読	対象学年	3 学年	履修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時数	70
目標 (生徒につけたい力等)	国語の授業において、適切で効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばし、進んで表現することによって社会生活の充実を図る態度を育てる。また、進路の実現を目指し、書くこと、話すことを中心に、社会性のある様々なテーマについて自分の考えを深め、伝えることのできる言語能力を育成する。						

学 期	時数(時間)	学習項目(何を学ぶのか)	学習内 容(どのように学ぶのか)					
1学期	30	・古典の作品を音読することを通して、読むための基礎的な事項を確認とともに、作品の主題を考える。 ・古典作品の時代背景や当時の人々のものの考え方方に触れる。	・枕草子(中納言参り給ひて) ・平家物語(壇の浦の合戦) ・方丈記(行く川の流れ)					
2学期	28	・1学期に学んだことを踏まえ、古典の世界と現代の社会との相違点を理解する。 ・自分とは異なる立場や考え方方に共感する態度を養う。	・大鏡(道真の左遷) ・枕草子(雪のいと高う降りけるを) ・大和物語(姥捨)					
3学期	12	・今まで学んだことを通して、作品に対する自分の考えをまとめて発表したり、友達の発表を聴いて良い点に共感したりする態度を養う。	・土佐日記(帰京) ・小倉百人一首					
教科書/ 副教材	教科書:東京書籍『新編 古典探究』、補助学習プリント等							
関連科目	「言語文化」							
評価の 観 点	知識・技術	授業で学んだ好転の世界の習慣やものの考え方を整理し、古典の世界を正しく理解することができたか。						
	思考・判断・表現	授業で学んだ現代と違う古典の世界の週刊やものの考え方と共に感し、日常生活で出会う自分と異なる考え方や立場に共感することができたか。						
	主体的に学習に取り組む態度	意欲的に取り組む気持ちを表現したり、意欲的の学習に取り組み提出部を提出することができたか。						
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	学習観察、発言、話し合い等		○	○	○			
	テスト等		○	○				
	ノート・提出課題				○			
	自己評価		○	○				
評価割合(%)		50	25	25				
留意事項	これまでに体験してきた事柄を関連づけて考察し、表現できるように配慮する。							
備考								